

教育研究業績書

2020年10月27日

所属：薬学科

資格：助教

氏名：小島 穂菜美

研究分野	研究内容のキーワード
臨床製剤学	苦味マスキング
学位	最終学歴
博士（薬学）	武庫川女子大学 薬学部 薬学科 卒業

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. SSH(Super Science High school)武庫川女子大学 附属高校生科学演習実験Ⅲ補助	2015年11月から2019年11月	インターネットによる医薬品情報検索方法の演習、スモールグループディスカッションによるグループ発表の補助、後発医薬品の品質評価として崩壊性の評価、沈降性の評価の実験補助を行った。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 薬剤師免許	2015年5月12日	2015年3月27日 薬剤師国家試験合格 2015年5月12日 薬剤師免許証下付
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. 高齢者を対象とした医薬品の苦味マスキング法および易嚥下性ゲル剤の調製に関する研究	単	2020年3月20日	武庫川女子大学	
3 学術論文				
1. Bitterness-Suppressing Effect of Umami Dipeptides and Their Constituent Amino Acids on Diphenhydramine: Evaluation by Gustatory Sensation and Taste Sensor Testing (査読付)	共	2020年3月	Chem. Pharm. Bull., 68 (3), 234-243	Okuno T, Morimoto S, Nishikawa H, Haraguchi T, <u>Kojima H</u> , Tsujino H, Arisawa M, Yamashita T, Nishikawa J, Yoshida M, Habara M, Ikezaki H, Uchida T. 酸性旨味ジペプチドおよびそのアミノ酸がジフェンヒドรามミン塩酸塩に苦味を抑制することを示した。
2. A new strategy for taste masking on bitter drug by other combined drug in fixed-dose combination: bitterness of Amlodipine besylate could be masked efficiently by Valsartan. (査読付)	共	2019年9月	J. Pharm. Pharmacol., 71 (9), 1384-1392	<u>Kojima H</u> , Nakamura S, Haraguchi T, Yoshida M, Habara M, Ikezaki H, Uchida T. 高血圧治療で用いられる剤剤の組み合わせのうち、アムロジピンベシル酸塩の苦味をバルサルタンが抑制することを示した。
3. Bitterness-Masking Effects of Different Beverages on Zopiclone and Eszopiclone Tablets. (査読付)	共	2019年5月	Chem. Pharm. Bull., 67 (5), 404-409	Yoshida M, <u>Kojima H</u> , Uda A, Haraguchi T, Ozeki M, Kawasaki I, Yamamoto K, Yano I, Hirai M, Uchida T. ゾピクロン錠、エスゾピクロン錠を飲料混合した場合の苦味評価を行い、クエン酸含有飲料が苦味を抑制することを示した。
4. Preparation and Characterization of Itraconazole- or Miconazole-Loaded PLGA Microspheres. (査読付)	共	2019年2月	Chem. Pharm. Bull., 67 (2), 106-111	Matsuura K, <u>Kojima H</u> , Haraguchi T, Yoshida M, Suzuki S, Suzuki T, Ando S, Uchida T. イトラコナゾールとミコナゾールのPLGAマイクロスフェア製剤を調製し評価した。
5. The relationship between bitter	共	2019年12月	Chem. Pharm. Bull., 6	Haraguchi T, Okuno T, Nishikawa H, <u>Kojima H</u> , Ik

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
r taste sensor response and physicochemical properties of 47 pediatric medicines and their biopharmaceutics classification (査読付)			7 (12), 1271-1277	Ikegami S, Yoshida M, Habara M, Ikegami H, Uchida T. 47種類の小児製剤について、センサ出力と物理化学的性質について相関性を検討した。
6. Preparation and evaluation of poly- γ -glutamic acid hydrogel mixtures with amlodipine besylate: effect on ease of swallowing and taste masking (査読付)	共	2019年12月	Chem. Pharm. Bull., 67 (12), 1284-1292	<u>Kojima H</u> , Haraguchi T, Ikegami S, Nishikawa H, Yoshida M, Ozeki M, Kawasaki I, Uchida T. ポリグルタミン酸ハイドロゲルを調製し、アムロジピンベシル酸塩の苦味を抑制することを示した。
7. Preparation and evaluation of poly- γ -glutamic acid hydrogel mixtures with basic drugs or acidic drugs: effect on ease of swallowing and taste masking (査読付)	共	2019年10月	Pharmacology & Pharmacy, 10 (10), 427-444	<u>Kojima H</u> , Ikegami S, Nakamura S, Nishikawa H, Haraguchi T, Yoshida M, Ozeki M, Kawasaki I, Uchida T. ポリグルタミン酸ハイドロゲルを調製し、塩基・酸性医薬品の苦味抑制および嚥下に有用であることを示した。
8. The Utility of the Artificial Taste Sensor in Evaluating the Bitterness of Drugs: Correlation with Responses of Human TAS2R Receptors (hTAS2Rs). (査読付)	共	2018年1月	Chem. Pharm. Bull., 66 (1), 71-77	Haraguchi T, Uchida T, Yoshida M, <u>Kojima H</u> , Habara M, Ikegami H. 味覚センサとヒト苦味受容体との相関性を評価した。
9. Effect of Self-healing Encapsulation on the Initial Burst Release from PLGA Microspheres Containing a Long-Acting Prostaglandin Agonist, ONO-1301. (査読付)	共	2017年7月	Chem. Pharm. Bull., 65 (7), 653-659	Hazekawa M, <u>Kojima H</u> , Haraguchi T, Yoshida M, Uchida T. ONO1301含有自己乳化型PLGAマイクロスフェアの初期バースト抑制作用を検討した。
10. Suppression in Bitterness Intensity of Bitter Basic Drug by Chlorogenic Acid. (査読付)	共	2017年2月	Chem. Pharm. Bull., 65 (2), 151-156	Shiraishi S, Haraguchi T, Nakamura S, <u>Kojima H</u> , Kawasaki I, Yoshida M, Uchida T. クロロゲン酸による塩基性医薬品の苦味抑制効果を検討した。
11. Taste-Masking Effect of Chlorogenic Acid (CGA) on Bitter Drugs Evaluated by Taste Sensor and Surface Plasmon Resonance on the Basis of CGA-Drug Interactions. (査読付)	共	2017年2月	Chem. Pharm. Bull., 65 (2), 127-133	Shiraishi S, Haraguchi T, Nakamura S, Li D, <u>Kojima H</u> , Yoshida M, Uchida T. クロロゲン酸の苦味抑制効果について味覚センサとSPR装置を用いて評価した。
12. Comparison of the Adsorption of Original and Biosimilar Preparations of Filgrastim on Infusion Sets and the Inhibition of Adsorption by Polysorbate 80. (査読付)	共	2017年1月	Chem. Pharm. Bull., 65 (1), 36-41	Tange M, Matsumoto A, Yoshida M, <u>Kojima H</u> , Haraguchi T, Uchida T. フィルグラスチムの先行品とバイオシミラーについて吸着性を比較検討した。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. γ -ポリグルタミン酸ハイドロゲルを用いた薬物の苦味抑制効果と嚥下性の評価	共	2020年5月	日本薬剤学会第35年会 (熊本)	池上咲枝里、 <u>小島徳菜美</u> 、西川知花、吉田都、内田享弘
2. WHO小児用必須医薬品リスト収載の医薬品原末に関するBitterness identification systemの構築	共	2020年5月	日本薬剤学会第35年会 (熊本)	<u>小島徳菜美</u> 、原口珠実、奥野敬義、池上咲枝里、西川知花、辻野博文、有澤光弘、山下沢、西川淳一、吉田都、内田享弘
3. 旨味ペプチドによる医薬品の苦味マスキングおよびメカニズムの検討	共	2020年5月	日本薬剤学会第35年会 (熊本)	西川知花、奥野敬義、 <u>小島徳菜美</u> 、池上咲枝里、辻野博文、有澤光弘、山下沢、西川淳一、吉田都、内田享弘
4. γ -ポリグルタミン酸ハイドロゲルの調製とその物理化学的性質およびテクスチャーの評価	共	2020年3月	日本薬学会第140年会 (京都)	池上咲枝里、 <u>小島徳菜美</u> 、中村思徳、西川知花、吉田都、内田享弘
5. 薬物混合 γ -ポリグルタミン酸ハイドロゲルの苦味抑制効果および分子間相互作用解析	共	2020年3月	日本薬学会第140年会 (京都)	西川知花、 <u>小島徳菜美</u> 、中村思徳、池上咲枝里、吉田都、内田享弘
6. 薬物の苦味抑制を目的とした γ -ポリグルタミン酸ハイドロゲルの調製	共	2019年5月	日本薬剤学会第34年会 (富山)	<u>小島徳菜美</u> 、原口珠実、王文平、池上咲枝里、吉田都、内田享弘
7. 低分子ペプチドによるジフェンヒドラミン塩酸塩の苦味抑制効果	共	2019年5月	日本薬剤学会第34年会 (富山)	西川知花、奥野敬義、森本菜、原口珠実、 <u>小島徳菜美</u> 、池上咲枝里、王文平、吉田都、内田享弘
8. 学生アンケート調査に基づいた病院実務実習の内容および意義の理解度、総合評価に及ぼす要因解析	共	2019年11月	第29回日本医療薬学会 (福岡)	<u>小島徳菜美</u> 、吉田都、内田享弘、栗原晶子、豊原朋子、濱宏仁、辻本勉、片岡和二郎、綿本有希子、田崎真生、波多江崇、森山賢治、三木知博、篠塚和正
9. Factors of bitterness in clinical	共	2019年11月	AAPS 2019 Pharmsci 36	Uchida T, Okuno T, Haraguchi T, <u>Kojima H</u> , Ikegami S

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
cal medicines for pediatric patients evaluated by correlation between physicochemical properties or biopharmaceutics classification and taste sensor responses			0 (San Antonio, USA)	mi S, Yoshida M.
10. 薬物の苦味抑制と嚥下補助を目的としたγ-ポリグルタミン酸ハイドロゲルの調製とその評価	共	2019年10月	第69回日本薬学会近畿支部総会・大会(神戸薬科大)	中村思徳、小島徳菜美、池上咲枝里、吉田都、内田享弘
11. 旨味ペプチドによる医薬品の苦味マスキングおよびメカニズムの検討	共	2019年10月	第69回日本薬学会近畿支部総会・大会(神戸薬科大)	西川知花、奥野敬義、小島徳菜美、池上咲枝里、辻野博文、有澤光弘、山下沢、西川淳一、吉田都、内田享弘
12. Taste masking evaluation of combination Amlodipine besylate and Valsartan using taste sensor and human sensation test.	共	2018年7月	2018 CRS Annual Meeting & Exposition (New York, USA)	Haraguchi T, <u>Kojima H</u> , Nakamura S, Yoshida M, Uchida T.
13. 小児用必須医薬品の苦味と物性の相関性評価	共	2018年5月	日本薬剤学会第33年会(静岡)	原口珠実、小島徳菜美、吉田都、内田享弘
14. 旨味ペプチドを用いた医薬品の苦味マスキング効果	共	2018年5月	日本薬剤学会第33年会(静岡)	小島徳菜美、森本栞、奥野敬義、原口珠実、吉田都、内田享弘
15. Evaluation the bitterness masking effect of umami peptides on bitter drugs by taste sensor measurement and human sensation test	共	2018年11月	AAPS 2018 Pharmsci 360(Washington D.C., USA)	Uchida T, Morimoto S, <u>Kojima H</u> , Haraguchi T, Yoshida M.
16. 味覚センサを用いたγ-ポリグルタミン酸ハイドロゲルによる薬物の苦味抑制評価	共	2018年11月	第28回日本医療薬学会(神戸)	小島徳菜美、市川聴奈、井上由梨、原口珠実、吉田都、内田享弘
17. WHO小児用必須医薬品リスト収載薬物の苦味と物性の相関性評価	共	2018年11月	第28回日本医療薬学会(神戸)	原口珠実、小島徳菜美、村上絢香、堀恵里加、西川知花、井上穂南、吉田都、内田享弘
18. 薬物の苦味抑制剤としての旨味ペプチドの有用性評価	共	2018年11月	第28回日本医療薬学会(神戸)	内田享弘、森本栞、春名麻美、小島徳菜美、原口珠実、吉田都
19. 長期実務実習における代表的8疾患の実施状況に関するアンケート調査解析	共	2018年11月	第28回日本医療薬学会(神戸)	吉田都、内田享弘、栗原晶子、豊原朋子、片岡和三郎、原口珠実、小島徳菜美、福田侑梨子、綿本有希子、藤原由梨、波多江崇、三木知博、中林利克、篠塚和正
20. 表面プラズモン共鳴 (SPR) 法を用いた薬物の苦味受容体サブタイプへの応答予測	共	2018年10月	第68回日本薬学会近畿支部総会・大会(姫路獨協大)	市川聴奈、西川知花、井上穂南、井上由梨、廣田理奈、山本 優、原口珠実、小島徳菜美、吉田都、内田享弘
21. γ-ポリグルタミン酸ハイドロゲルを用いた医薬品の苦味抑制効果	共	2018年10月	第68回日本薬学会近畿支部総会・大会(姫路獨協大)	井上由梨、井上穂南、西川知花、市川聴奈、小島徳菜美、原口珠実、吉田都、内田享弘
22. 内服剤および注射剤に関する臨床製剤学的研究	共	2017年8月	兵庫県薬剤師会・病院薬剤師会連携1周年記念大会(神戸)	吉田都、原口珠実、小島徳菜美、内田享弘
23. Bitterness suppression on basic drug by chlorogenic acid evaluated by taste sensor and 1H-NMR	共	2017年7月	2017 CRS Annual Meeting & Exposition (Boston, USA)	<u>Kojima H</u> , Shiraishi S, Nakamura S, Haraguchi T, Yoshida M, Uchida T.
24. 薬物のヒト苦味受容体hTAS2Rs応答に関わる因子の探索	共	2017年5月	日本薬剤学会第32年会(大宮)	原口珠実、小島徳菜美、吉田都、内田享弘
25. Bitterness intensity of medicine could be masked efficiently by combination of drugs on taste sensor and human volunteers	共	2017年5月	4th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress	Haraguchi T, Nakamura S, <u>Kojima H</u> , Yoshida M, Uchida T.
26. 味覚センサを用いた薬物混合液の苦味評価	共	2017年5月	日本薬剤学会第32年会(大宮)	小島徳菜美、中村早貴、原口珠実、吉田都、内田享弘
27. 味覚センサと1H-NMRを用いたクロゲン酸によるジフェンヒドラミン塩酸塩の苦味抑制に関する評価および機序の解明	共	2017年3月	日本薬学会第137年会(仙台)	小島徳菜美、白石早祐子、中村早貴、原口珠実、吉田都、内田享弘
28. 味覚センサと1H-NMRを用いた降圧薬2種混合による医薬品原末の苦味抑制効果とその機序の解明	共	2017年3月	日本薬学会第137年会(仙台)	原口珠実、中村早貴、白石早祐子、小島徳菜美、吉田都、内田享弘
29. 味覚センサを用いたゾピクロン錠の飲料による苦味マスキング効果およびメカニズムの検討	共	2017年11月	第27回日本医療薬学会年会(千葉)	吉田都、宇田篤史、原口珠実、小島徳菜美、山本和宏、平井みどり、内田享弘
30. Correlation between response to artificial taste sensors and response to human TASTE2 receptors (hTAS2Rs) stimulated with bitter compounds	共	2017年11月	AAPS annual meeting and exposition 2017(San Diego, USA)	Uchida T, Haraguchi T, <u>Kojima H</u> , Yoshida M, Habara M, Ikezaki H.

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
31. 低分子ペプチドによる医薬品の苦味マスキング	共	2017年11月	第27回日本医療薬学会年会(千葉)	森本菜、原口珠実、 <u>小島徳菜美</u> 、吉田都、内田享弘
32. 味覚センサを用いた旨味ペプチドによる医薬品の苦味マスキング評価	共	2017年10月	第67回日本薬学会近畿支部総会・大会(兵庫医療大)	森本菜、原口珠実、 <u>小島徳菜美</u> 、吉田都、内田享弘
33. 在宅医療における薬剤師の役割	共	2017年10月	第67回日本薬学会近畿支部総会・大会(兵庫医療大)	廣田理奈、黒田泰司、吉田都、原口珠実、 <u>小島徳菜美</u> 、内田享弘
34. アゾール系抗真菌薬含有自己修復マイクロソフエアの調製とその評価	共	2017年10月	第67回日本薬学会近畿支部総会・大会(兵庫医療大)	<u>小島徳菜美</u> 、原口珠実、吉田都、内田享弘
35. フィルグラスチムの輸液器具への吸着に及ぼすポリソルベート80の影響	共	2016年9月	第26回日本医療薬学会年会(京都)	<u>小島徳菜美</u> 、丹下美緒、松本晃乃、原口珠実、吉田都、内田享弘
36. NSAIDsと胃粘膜保護薬配合剤の苦味評価	共	2016年9月	第26回日本医療薬学会年会(京都)	中村早貴、原口珠実、 <u>小島徳菜美</u> 、吉田都、内田享弘
37. 武庫川女子大学における長期実務実習に関するアンケート調査-文部科学省改訂薬学教育モデルコアカリキュラム対応環境整備を目的として-	共	2016年8月	第1回日本薬学教育学会大会(京都薬科大)	吉田都、内田享弘、栗原晶子、豊原朋子、片岡和三郎、原口珠実、 <u>小島徳菜美</u> 、綿本有希子、藤原由梨、高道二千香、高橋幸一、岡村昇、中村一基、森山賢治、奥田浩人、三木知博、中林利克、市川厚、篠塚和正
38. Analysis the responses of human bitterness receptor agonists toward taste sensors	共	2016年7月	2016 CRS Annual Meeting & Exposition (Seattle, USA)	Haraguchi T, Uchida T, Yoshida M, <u>Kojima H</u> , Habara M, Ikezaki H.
39. 医薬品の苦味受容体(hTAS2Rs)応答と味覚センサ脂質膜応答の相関性評価	共	2016年5月	日本薬剤学会第31年会(岐阜)	原口珠実、中村早貴、白石早祐子、 <u>小島徳菜美</u> 、吉田都、羽原正秋、池崎秀和、内田享弘
40. ポリソルベート80添加によるフィルグラスチムの輸液器具への吸着抑制効果	共	2016年5月	日本薬剤学会第31年会(岐阜)	<u>小島徳菜美</u> 、丹下美緒、松本晃乃、原口珠実、吉田都、内田享弘
41. 表面プラズモン共鳴(SPR)法と1H-NMRによる医薬品と苦味抑制物質の相互作用解析	共	2016年5月	日本薬剤学会第31年会(岐阜)	中村早貴、白石早祐子、李達?、原口珠実、 <u>小島徳菜美</u> 、吉田都、内田享弘
42. Evaluation the effect of chlorogenic acid on bitter drugs using taste sensor system and surface plasmon resonance (SPR)	共	2016年5月	BIOSENSORS 2016 (Göteborg, Sweden)	Haraguchi T, Shiraishi S, Nakamura S, <u>Kojima H</u> , Yoshida M, Uchida T.
43. Evaluation the odour of nutrient product by human and electronic nose system	共	2016年5月	BIOSENSORS 2016 (Göteborg, Sweden)	Uchida T, Haraguchi T, Yoshida M, <u>Kojima H</u> ,
44. 味覚センサを用いたゾピクロン錠およびエスゾピクロン錠の飲料による苦味マスキング効果の検討	共	2016年3月	日本薬学会第136年会(横浜)	吉田都、宇田篤史、原口珠実、 <u>小島徳菜美</u> 、内田享弘、山本和宏、平井みどり
45. NSAIDsを含む医薬品配合剤の味評価に関する研究	共	2016年3月	日本薬学会第136年会(横浜)	中村早貴、原口珠実、白石早祐子、 <u>小島徳菜美</u> 、吉田都、内田享弘
46. クロロゲン酸による医薬品の苦味抑制効果に及ぼす分子間相互作用の影響	共	2016年3月	日本薬学会第136年会(横浜)	原口珠実、白石早祐子、川崎郁男、西出喜代治、中村早貴、 <u>小島徳菜美</u> 、吉田都、内田享弘
47. 電子味覚システムを用いたクロロゲン酸、カフェ酸、キナ酸による医薬品の苦味抑制評価	共	2016年3月	日本薬学会第136年会(横浜)	<u>小島徳菜美</u> 、中村早貴、白石早祐子、原口珠実、吉田都、内田享弘
48. アゾール系抗真菌薬含有自己修復マイクロソフエアの調製とその評価	共	2016年10月	第66回日本薬学会近畿支部大会・総会(大阪薬科大)	西田未奈、西村美紀、藤井美奈子、橋本明希、 <u>小島徳菜美</u> 、原口珠実、吉田都、内田享弘
49. 味覚センサを用いた降圧薬原末2種混合試料の苦味評価	共	2016年10月	第66回日本薬学会近畿支部大会・総会(大阪薬科大)	吉田都、原口珠実、白石早祐子、中村早貴、 <u>小島徳菜美</u> 、内田享弘
50. 医薬品の苦味抑制に及ぼす因子としてのクロロゲン酸-医薬品相互作用の解析とその関連物質の苦味抑制効果	共	2016年10月	第66回日本薬学会近畿支部大会・総会(大阪薬科大)	白石早祐子、中村早貴、原口珠実、 <u>小島徳菜美</u> 、吉田都、内田享弘
51. 電子味覚システムを用いた医薬品の味質分類評価	共	2015年5月	日本薬剤学会第30年会(長崎)	中村早貴、原口珠実、白石早祐子、 <u>小島徳菜美</u> 、吉田都、内田享弘
52. 医薬品-苦味マスキング剤間の分子間相互作用解析	共	2015年5月	日本薬剤学会第30年会(長崎)	原口珠実、中村早貴、白石早祐子、 <u>小島徳菜美</u> 、吉田都、内田享弘
53. 味覚センサを用いた複合剤の苦味予測	共	2015年11月	第25回日本医療薬学会年会(横浜)	原口珠実、中村早貴、白石早祐子、竹下華子、 <u>小島徳菜美</u> 、吉田都、内田享弘
54. クラリスロマイシンドライシロップの品質評価	共	2015年11月	第25回日本医療薬学会年会(横浜)	<u>小島徳菜美</u> 、福留夢姫、松本早織、原口珠実、吉田都、内田享弘
55. Interaction analysis between drug and taste masking agent by	共	2015年10月	AAPS annual meeting and exposition 2015 (O)	Haraguchi T, Nakamura S, Shiraishi S, <u>Kojima H</u> , Yoshida M, Uchida T.

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
surface plasmon resonance (SPR) 56. Classification the quality of taste in drugs by principal component analysis (PCA) using taste sensor outputs	共	2015年10月	Orlando, USA) AAPS annual meeting and exposition 2015 (Orlando, USA)	Nakamura S, Haraguchi T, Shiraishi S, <u>Kojima H</u> , Yoshida M, Habara M, Ikezaki M, Uchida T.
57. 医薬品の苦味抑制に及ぼす因子としてのクロロゲン酸由来物質（カフェ酸、キナ酸）の効果	共	2015年10月	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪大谷大)	白石早祐子、川崎郁勇、西出喜代治、中村早貴、原口珠実、 <u>小島穂菜美</u> 、吉田都、内田享弘
58. 医薬品合剤に関する現状調査と服用性評価	共	2015年10月	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪大谷大)	福留夢姫、松本早織、竹下華子、奥山あや、中村早貴、原口珠実、 <u>小島穂菜美</u> 、吉田都、内田享弘
59. フィルグラスチム製剤の輸液器具への吸着に関する検討	共	2015年10月	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会(大阪大谷大)	松本晃乃、松本美穂、丹下美緒、原口珠実、 <u>小島穂菜美</u> 、吉田都、内田享弘
60. The role of an impurity in ceftriaxone sodium preparation for injection in determining compatibility with calcium-containing solutions	共	2015年10月	AAPS annual meeting and exposition 2015 (Orlando, USA)	Tange M, Haraguchi T, <u>Kojima H</u> , Yoshida M, Naka i Y, Uchida T.
3. 総説				
1. 苦味受容体へ作用するインバーシアゴニストと苦味マスキングの可能性	単	2020年1月	日本薬学会 ファルマシア「トピックス」56巻1号	
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
1. ヒト苦味受容細胞を用いた新規バイオセンサの開発と医薬品の苦味評価	単	2019年	科学研究費補助金 若手研究（研究課題番号:19K16464）	代表者
学会及び社会における活動等				
年月日	事項			
1. 2016年～現在	日本薬剤学会			
2. 2015年～現在	日本薬学会			
3. 2015年～現在	日本医療薬学会			